

銚ヶ岳

北信野原城 柵口より

1994年4月23日（曇り一時晴のち雨）
メンバー：L酒井正裕，農林山の会2名

能生谷に沿って車を走らせ柵口集落の権現荘に着く。ここは村営の温泉で、下山後よく入浴する温泉であるが、時間外は1階の駐車場（資材置場？）が夜露を凌ぐに十分な場所を提供してくれる。今回もここで仮眠することとした。

早朝、ここから車で取り付きへ向かう。権現荘手前から右の道に入るが、地図から推察できない程複雑な道であるため、地図にとらわれず単に権現岳から延びている尾根の末端を目指す。

三角屋根の作業小屋のある手前で車を降り、先に続く林道をたどると、直ぐに林道は二分する。眼前には湯沢川に懸かる砂防ダムが見える。残雪が比較的多いので砂防ダムの左脇を直接越し、砂防ダム先から登路を右岸に採る。

左岸に懸かる白滝60mを横目に見送り、遡行すること僅かで谷はデブリや土砂で埋まる。ここから、標高730mまでは兩岸共スラブが発達し、まるで劔岳の谷をそのまま小さくしたような感じの谷を歩く。右岸には不安定なブロックが残るので雪崩には充分注意して迅速に行動しなければならない。特に、ゴルジュ帯の最狭部は谷がここで終わったかのようにも思えるような様相を呈しており、雪渓下に20m程度の滝が存在しているように思える。もし、クレバスができて通行が難しいようだとここで退却せざるを得ないだろう。この部分は、雪渓の状態に充分注意しつつ、急な雪面を左岸寄りに慎重に登

る。

ここを登り終えると、突鷄峰から権現谷を入れ一旦平坦となるが、直ぐ先で谷が急激にせり上がっている。ここも、右岸からのブロックの崩壊に注意しながら、なるべく左岸寄りにルートを探る。

ここを過ぎると谷は穏やかとなり、突鷄峰北西のピークに突き上げる沢を入れる（標高730m）。

ここからは、大沢岳付近の稜線まですっきりと見渡せ、斜面も荒れていない。先程までのデブリと土砂で埋め尽くされた谷が信じられないくらいである。これから先、ルートは金冠の岩峰を横目に大沢岳方面の稜線に一旦出るか、標高950m辺りから銚ヶ岳本峰に直接出かのどちらかであるが、本山行では前者を採った。

稜線に出ると尾根は広く緩やかであり、大沢岳を経由して、ところどころ夏道をたどりながら頂上に向かう。頂上には無人小屋があり、この時期には充分使用できる状態である。展望も申し分ない。

頂上からのスキー滑降は、突鷄峰に向かう尾根沿いに少し降りたところで滑り出しからデブリもほとんどなく快適な斜面が続く。先程の標高730mの地点まで一気に滑ってしまう。このルートは、かなり以前に放山で会った地元山岳会の人に聞いたものであるが、銚ヶ岳にこのようなスキーに適した斜面があるとは私もそれまで想像もしていなかった。

タイム：

取り付き(5:20)-ゴルジュ帯最狭部
(6:00)-730m(6:45)-銚ヶ岳(8:15
/40)-730m(9:00)-取り付き(10:05)

ルート図 銚ヶ岳

